

## 追悼 阿部徳三郎先生

東北大學 細谷昂

阿部徳三郎先生は、1994年9月11日、外出先からの帰途、山形県東田川郡三川町大字押切のご自宅の近くで、不慮の交通事故によりお亡くなりになりました。

阿部先生は、1907（明治44年）11月20日のお生まれ。成城高等学校をご卒業後、1932（昭和7年）に京都大学経済学部にご入学、1935（昭和10）年にご卒業になりました。その後、東京大学大学院（経済学部）に入学され、またドイツ留学も経験されました。

第二次大戦後、1949（昭和24）年に、山形大学農学部の前身、山形県立農林専門学校の講師となられ、山形大学に移管後、農学部、教養部等において、ながく非常勤講師としてドイツ語、農村社会学等の教育にあたられました。

阿部先生は、村落社会研究（学）会の他、日本社会学会、東北社会学会の会員でしたが、とくに村落社会研究（学）会の大会には毎年必ず参加され、若い会員の報告を熱心に聞いておられました。

\*

阿部先生はよく、なかば冗談をこめてご自分のことを「転落地主」といっておられました。

阿部先生のお宅は、1924（大正13）年、農林省農務局調べの「五十町歩以上ノ大地主」によると、水田159.9町歩、畠12.1町歩、合計172.0町歩の地主でした。その土地の所在地も、東田川郡11村、西田川郡3村、鮑海郡2村に広がっています。庄内地方には、有名な本間家をはじめ、大地主がたくさん居住していたわけですが、この数字は、この資料において庄内地方第四位、堂々たる大地主といってよいでしょう。

しかし阿部先生のお宅は、例えば『三川町史』などにおいて、村長等の役職者としては名前があがってきません。ただ、学校の建物等の寄付者として記録されているだけです。あるいは政治などには超然とした立場を保つ性格の家だったのでしょうか。むろんこれだけ大きければ、村レベルをこえた存在でもあったでしょう。

阿部先生のご生前、先生のお宅にはいろいろと資料があるのでしうね、とおたずねしたことがあります。そうしたら先生は、ある有名な経済学者の名前を挙げて、みんな借りていって返してこないんだよ、といって撫然としておられました。

\*

阿部先生は、どういうわけか「マルクシスティッシュ・ゾツイオロギー」に親近感をもっておられたようで、私などはとくにかわいがっていました。

「マルクシスティッシュ・ゾツイオロギー」が「転落地主」とどのようにして結びつくのか、私にはついに解らずじまいでしたが、いま思うとその真意は、あまり新しいものばかり追い求めるのでなくしっかり腰を据えて勉強しなさいよ、という後輩へのお諭しであったのかもしれません。

あの独特のドイツ語混じりの談論風発が、なつかしく思い出されます。もうこれから、村研の会場で先生にお会いできないかと思うと、寂しい気持でいっぱいです。

ここに、生前の阿部徳三郎先生をお偲びし、心からご冥福をお祈り申し上げる次第です。